

トンボの調査

なぜトンボを調べるのか

トンボの幼虫(ヤゴ)には水辺が必要です。幼虫や成虫が好む環境は種類により異なります。そのため、トンボが移動する範囲に、池、小川、林などの環境が必要となります。

オニヤンマ

体長 9~10cm
日本で一番大きなトンボ。
体色は黒地に黄色の縞模様があり、
成熟個体の複眼はエメラルドグリーン。



底に砂泥がある安定した緩やかな流れの水路と林が近くにある場所を好みます。この環境は里山の水辺の生き物(水生昆虫・カエルなど)にとっても重要です。

ギンヤンマ類

体長 7cm
成熟した個体は胸が明るい緑色。
腹部の付け根の色は、雄が水色、
雌が緑色。



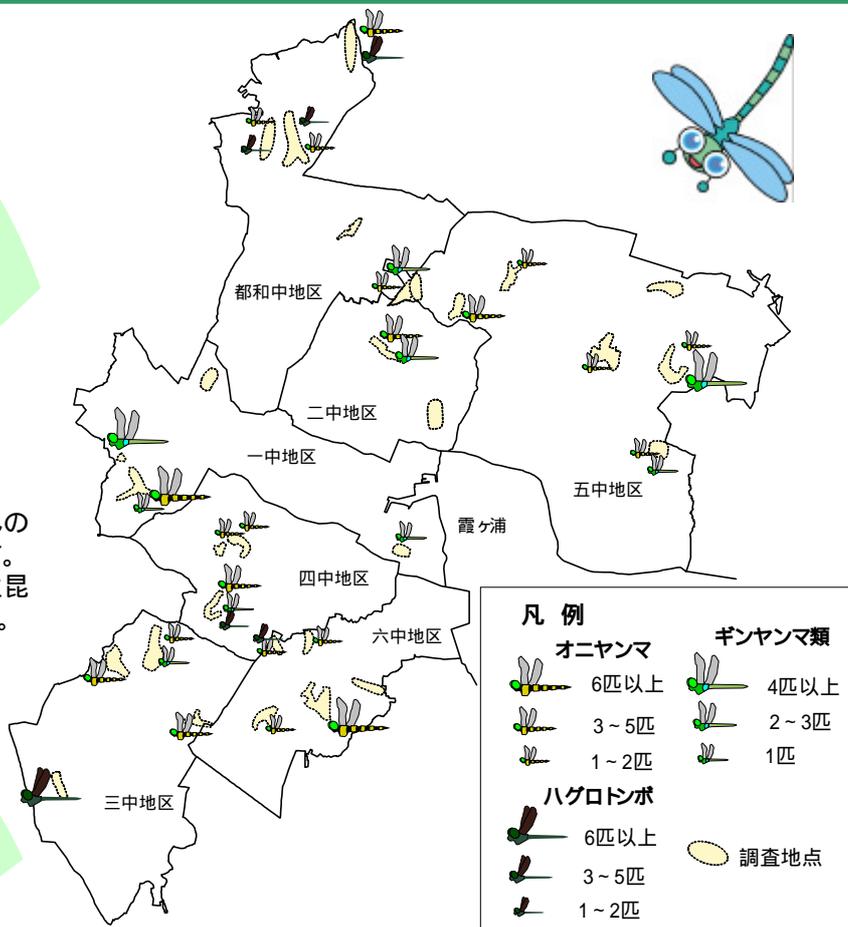
ため池に生息する代表的なトンボ。適度に管理され、水生植物がある程度生育しているため池を好みます。

ハグロトンボ

体長 6cm
羽根が黒く、雄の体色は全体的に黒く、腹部の背面が金属光沢をもった緑色。雌は黒褐色。

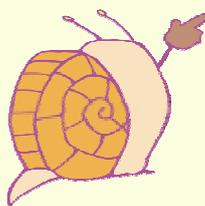


水生植物が茂る、安定した緩やかな流れと薄暗い林が隣接した環境を好みます。



トンボ類 分布図(8月調査)

トンボ調査の結果



オニヤンマは、林沿いや水田脇の水路を行き来するのが確認されました。コンクリート水路でも底に砂泥が堆積しているような場所では見られませんでした。

ギンヤンマは、水面が開けている池などで見られます。ため池以外では、ハスの刈り取られたハス田で見られました。

ハグロトンボは、今回調査した谷津田周辺ではあまり確認されませんでした。ハグロトンボが好む環境が少なくなってきていると考えられます。